

第2章 各教科等における学習評価

12 特別活動

特別活動においては、学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を決めることとしている。

特別活動は、全校又は学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多いことから、各学校には評価体制を確立し共通理解を図って、子供たちのよさや可能性を多面的・総合的に評価できるようにすることも求められる。

また、評価を通じて、教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるような工夫改善を図ることが求められる。

各学校においては、特別活動の特質を踏まえ、次のような評価の手順や留意点を参考にして、適切に評価を進めることが大切である。

ここでは、

小学校第5学年「がんばったね集会をしよう」
(学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

を例として、その評価例を示す。

① 「評価の観点」とその趣旨を設定する。

各学校において、特別活動の目標及び内容を踏まえ、自校の実態に即し、観点を作成する。その際、次に示すように、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえて、具体的な観点を設定することが考えられる。

【特別活動における「評価の観点及びその趣旨」をもとにした例】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の回り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

② 各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

学習指導要領で示された「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示された「資質・能力」を確認し、各学校の実態に合わせて育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

【学級活動(1)において育成することが考えられる資質・能力の例】

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、多様な意見を生

かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。

- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

(小学校学習指導要領解説特別活動編 P48・中学校学習指導要領特別活動編 P46)

③ 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

各学校で作成した評価の観点や目指す資質・能力をもとに、学習指導要領で示された各活動・学校行事の「内容」に即して、評価規準を作成する。学級活動の内容のまとめりは、学級活動(1)、(2)、(3)である。

【評価規準の作成のポイント】

- 「知識・技能」の評価規準の作成について
 - ・ 「知識・技能」は、話合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成する。
 - ・ 学習指導要領解説における資質・能力の例に示されている内容の意義を確認する。
 - ・ 文末を「～を理解している、～を身に付けている」とする。
- 「思考・判断・表現」の評価規準の作成について
 - ・ 「思考・判断・表現」は、話合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉え、評価規準を作成する。
 - ・ 「表現」は、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉えることとする。
 - ・ 文末を「～している」とする。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成について
 - ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成する。
 - ・ 身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度の観点を具体的に記述する。
 - ・ 各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用いる。
 - ・ 文末を「～しようとしている」とする。

学級活動については、児童生徒の発達の段階に即し、評価規準を作成することが考えられる。

【第5学年及び第6学年の例】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

④ 「目指す児童の姿(具体的な目指す生徒像)」の設定

1 単位時間の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に即して、事前・本時・事後における「目指す児童の姿」を、具体的に設定することが考えられる。その際、評価場面の重点化

を図ることも考えられる。

「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため、具体的な児童の姿をいくつか想定して記述する。

【「目指す児童の姿」の例】

	目指す児童の姿	観点	評価方法
事前	◎がんばったね集会への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。	主体的態度	学級会ノート
	◎友達のがんばりを認め合う内容を学級会ノートに書いている。	思考・判断・表現	観察・学級会ノート
本時 (6話合い)	◎これまでの集会活動の経験を生かしたり、友達の意見のよさを生かしたりして、がんばったね集会の内容や工夫について考えている。	思考・判断・表現	発言・観察
	◎提案理由や話合いのめあてに沿って発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。		
事後	◎がんばったね集会のめあてを意識して、友達と協力して取り組もうとしている。	思考・判断・表現	学級会ノート・観察
	◎がんばったね集会の成果と課題を振り返り、自他のがんばりに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。	主体的態度	学級会ノート・観察

⑤ 観点ごとに評価を総括する

各学校で定めた評価の観点を指導要録に記入した上で、各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。なお、特別活動における十分満足できる活動の状況の評価に当たっては、特別活動の特質を踏まえ、児童生徒のよさや可能性を積極的に評価することが大切である。

【小学校児童指導要録（参考様式）様式2（第5学年）の記入例】

特別活動の記録		学年					
内容	観点	1	2	3	4	5	6
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能	○		○	○	○	
児童会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○				
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				○		
学校行事	余白						○

全学年で共通した、各学校で定めた評価の観点を記入する。

評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておく。

児童会活動は第1学年から第6学年までの全児童で組織する児童会による異年齢集団活動であることから、低学年においても活動の状況を適切に評価する。

これはクラブ活動を第4学年から実施している学校の例である。学校規模等により下学年から実施する場合は実施しない学年について斜線を引く。

例えば、児童指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に「自然の教室」で、めあてに向かって自分の役割を責任をもって行うとともに、友達と協力して野外活動に取り組んでいた。」と記入するなど、○を付けた根拠を示すようにする。

<参考資料>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校) (国立教育政策研究所)